

2.3 共通操作 2 印刷・保存・可搬電子媒体への保存・終了 (、 、)

-1 できた図を印刷する

"CGER-GMET (Global Meteorological Data Display System)"のウィンドウに戻ります。

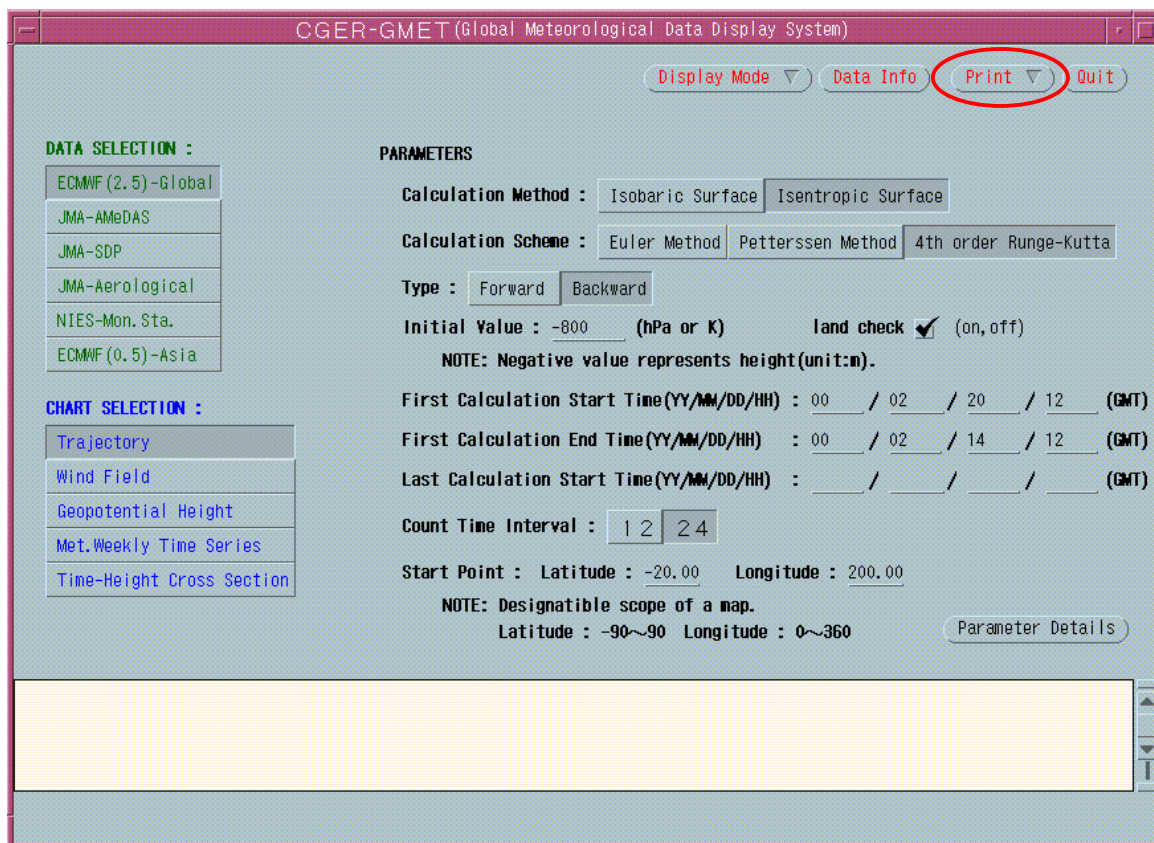


Figure 2.10 CGER-GMET (Global Meteorological Data Display System) window.
CGER-GMET のウィンドウ

画面右上の右端から 2 番目の

"Print" ボタンを ①。

上図では 2.5 ° データを用いたトラジェクトリ計算の画面ですが Print ボタンは共通です。

プリンター (Canon LBP-2035 PS) から白黒で印刷されます。

さらに図を保存する場合は -2 に行きます。保存せず次の作図をする時は xxx-1 に続きます。

-2 できた図を名前を付けて保存する

壁紙上で ⑥1。

"プログラム" ⑥1

"スナップショット" ⑥1

"イメージビューア-スナップショット"のウィンドウが出てきます。

"スナップタイプ: ウィンドウ 領域 画面" のウィンドウの左の を ⑥1。

" 取り込み中にウィンドウを隠す"の を ⑥1。チェックマークがつきます。

"スナップ" ボタンを ⑥1。

印刷したい図のどこかをすばやく ⑥1。

"イメージビューア-スナップショット"のウィンドウの下に"スナップが成功しました"と表示され同時に、図が"イメージビューア-Untitled"のウィンドウで囲まれば OK。

"イメージビューア-Untitled"ウィンドウの"ファイル" ⑥1。

テキストファイルについては自動的に保存されます

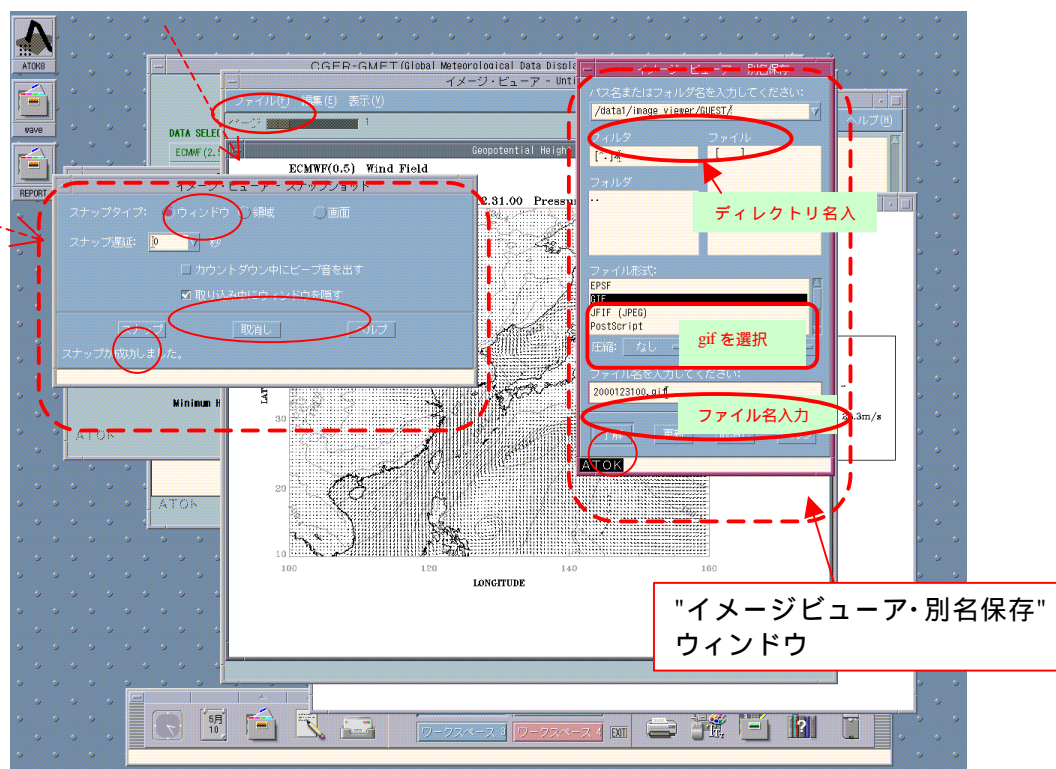


Figure 2.11 Windows on screen when naming and saving the file.
スナップが成功し名前を付けて保存しようとしている状態の画面(0.5° ジオポテンシャルハイトの場合)

"別名保存" ㊦1。

"イメージビューア-別名保存"のウィンドウが出てきます。

保存するディレクトリを上ボックスに入力。

ユーザーの方がアクセス可能なディレクトリについては係の者にお尋ねください。

ファイルの種類(gif あるいは ps など)を ㊦1。Figure 2.11 では gif になっています。

ファイルの名前を半角英数で入力します。拡張子も入力します。

"了解" ボタン ㊦1。

保存したファイルを CD-ROM や MO ディスクなどにコピーする

!本システムには CD や MO が入りません!

結果ファイルを FFFFTP というソフトを使って近くの Windows PC に転送します。
どのパソコンを使えばよいか係りの者にお尋ねください。

ここからは係りの者が指定した Windows PC での作業になります。

本項の説明では、画面上にあらわれる表示等はクォーテーションマークで囲んでいますが UNIX 機の操作ではないので緑色文字は使用していません。また㊦1 等の記号も用いていません。

使用するパソコンにある緑色の"FFFTP アイコン"をダブルクリック

"ホスト一覧"のウィンドウがでたら"sun91g"を選び"接続"

このときパソコンによってはユーザー名とパスワードを聞いてくる場合もありますので本システムの画面立ち上げ時に使用したものをそれぞれ入力します。

右に UNIX、左に使用するパソコンのエクスプローラ形式の画面がそれぞれ表示されます。

右画面でコピーしたいファイル(gif や ps や txt など)のあるディレクトリを表示させます。

左画面で CD あるいは MO のドライブを表示させます。

ここで転送モードを確認します。次の Figure 2.12 と 2.13 を 参照して下さい。

拡張子が"dat"以外の画像ファイルや txt ファイルを転送する場合は(A)の状態で行います。

(A)"ファイル名で転送モード切替"および"漢字コードの変換なし"をマウス左ボタンでクリックしてアクティブにします。ボタンが押し込まれたように表示されている状態がアクティブです。

拡張子が"dat"のファイルを転送する場合は(B)の状態で行います。

(B)"アスキー転送モード"および"ホストの漢字コードは EUC"をアクティブにし、
"カナ"を非アクティブにします。

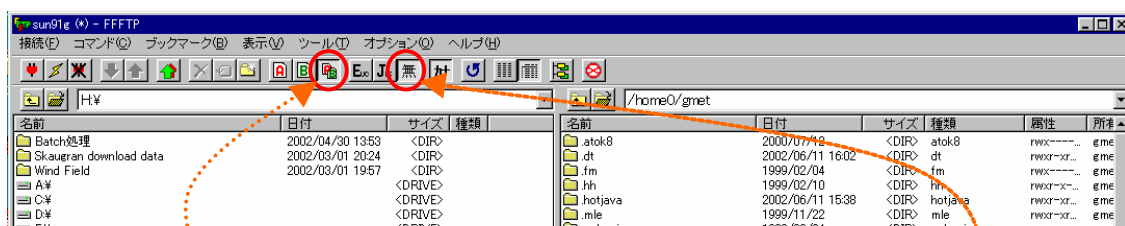


Figure 2.12 FFFTP screen on PC (Case A).
PC 上の FFFTP の画面 ((A) の場合)

FFFTP 転送モード: (A) "ファイル名で転送モード切替"および"漢字コードの変換なし"がアクティブ。

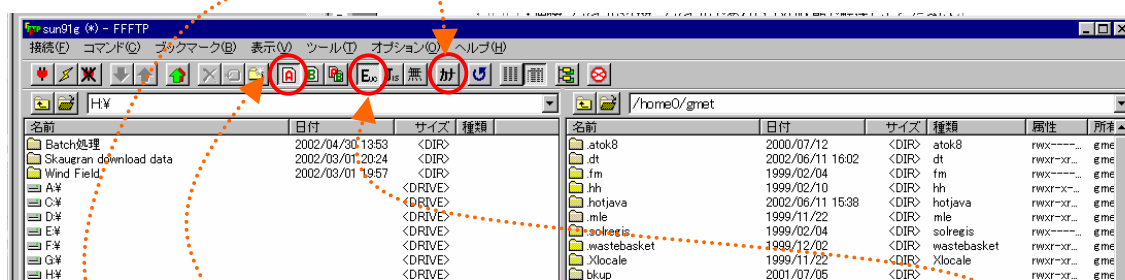


Figure 2.13 FFFTP screen on PC (Case B).
PC 上の FFFTP の画面 ((B) の場合)


FFFTP 転送モード: (B) "アスキー転送モード"および"ホストの漢字コードは EUC"をアクティブにし、"カナ"が非アクティブ。

"ダウンロードは正常終了しました"のメッセージが左下にできれば完了です。

終了する

"CGER-GMET (Global Meteorological Data Display System)"のウィンドウへ他の開いているウィンドウを終了させて戻ります。

右上の右端の

"Quit"ボタンを 1

"file list"のウィンドウが出て"Please select files you save"の下エリアに
/home0/gmet/gmetnetwork/wave 内のファイルが表示されます。

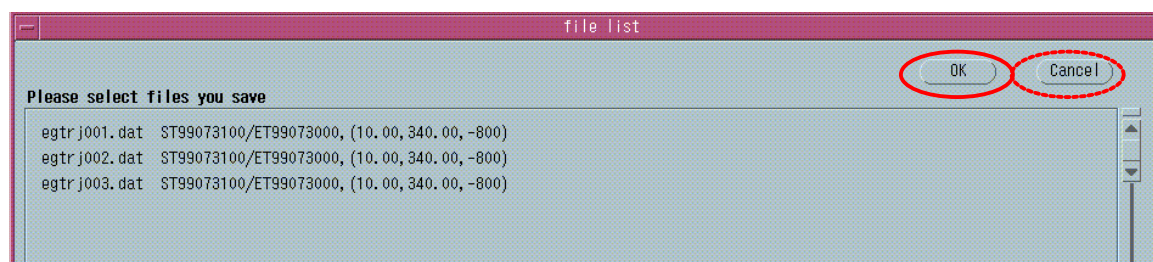


Figure 2.14 File list window (partial).
"file list"ウィンドウ (部分)

右上の"OK"ボタンを ⑥1、間違えた場合は"Cancel"ボタンを ⑥1。

"OK"をクリックした場合"Unselected files will be DELETED"と表示されます。

すでに MO などに保存しており消してよいファイルであれば

"YES, Continue"を ⑥1。

原則としてデータファイルは MO などにコピーして UNIX 機にはデータを残さない
ようにお願いします。

"端末エミュレータ"のウィンドウがでてきて"sun91g%"と表示されていればそのまま exit と入力し [RETURN]。

"端末エミュレータ"のウィンドウが消えれば終了です。

近くの者に声をおかけください。

2.4 バッチ処理によるトラジェクトリ計算 (、 、)

バッチ処理によるトラジェクトリ計算では対話型の操作画面を使用せずテキストエディタを使ってパラメータファイルに直接パラメータを書き込み編集します。UNIX の操作になれていない方は係りの者にお尋ねください。

bat 操作準備をする(batch Trajectory)

画面の壁紙上で ㊟1。

または 画面下にあるアイコンを ㊟2。

"プログラム" ㊟1。

"ファイルマネージャー" ㊟1。

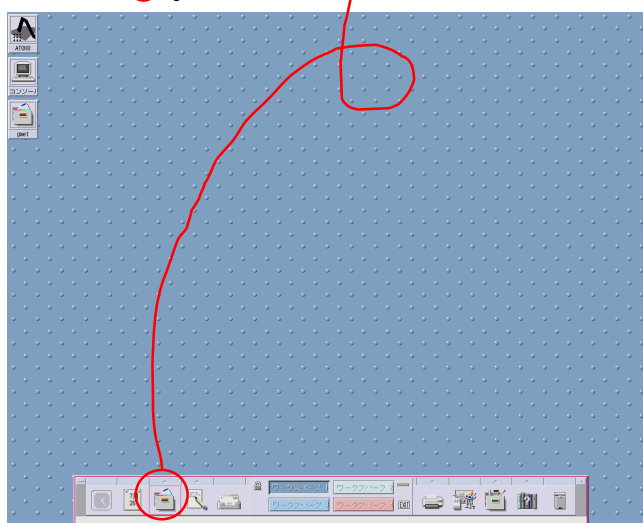


Figure 2.15 Screen just after logging into the system.
ユーザー名とパスワードを入力した後に出てくる画面

"trjbat" ㊟2。

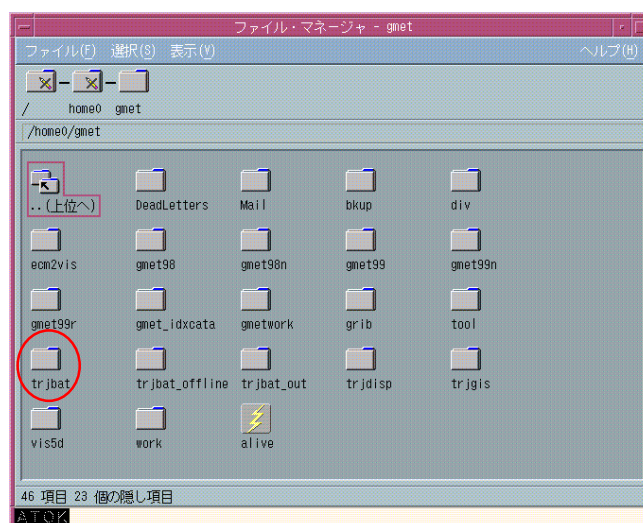


Figure 2.16 File manager window.
ファイルマネージャーのウィンドウ

"trjbat"フォルダの内容が表示されたら"parabatch.txt" ②。

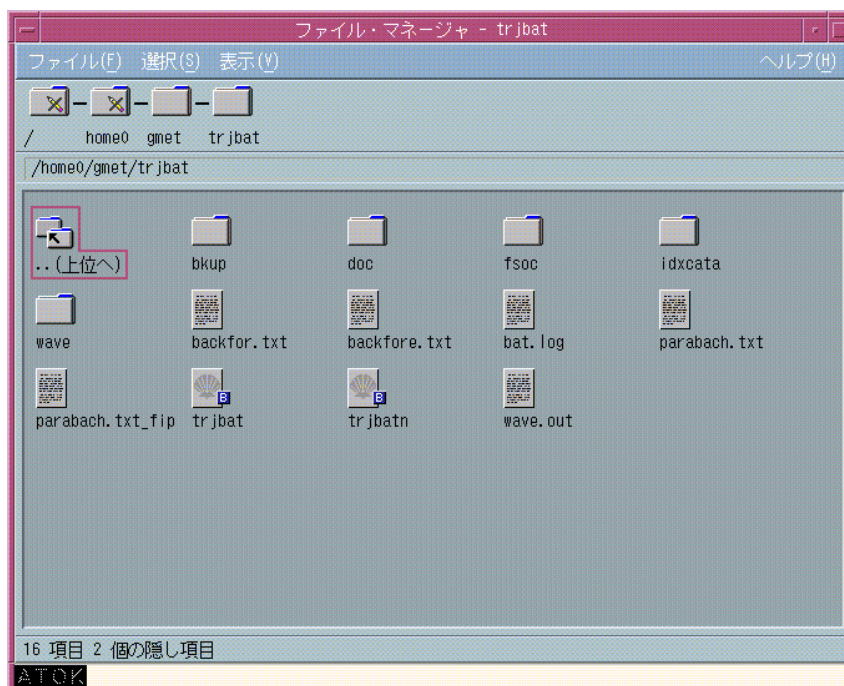


Figure 2.17 File manager-trjbat window.
ファイルマネージャ trjbat のウィンドウ

"テキスト・エディタ-parabatch.txt"のウィンドウが出てきます。

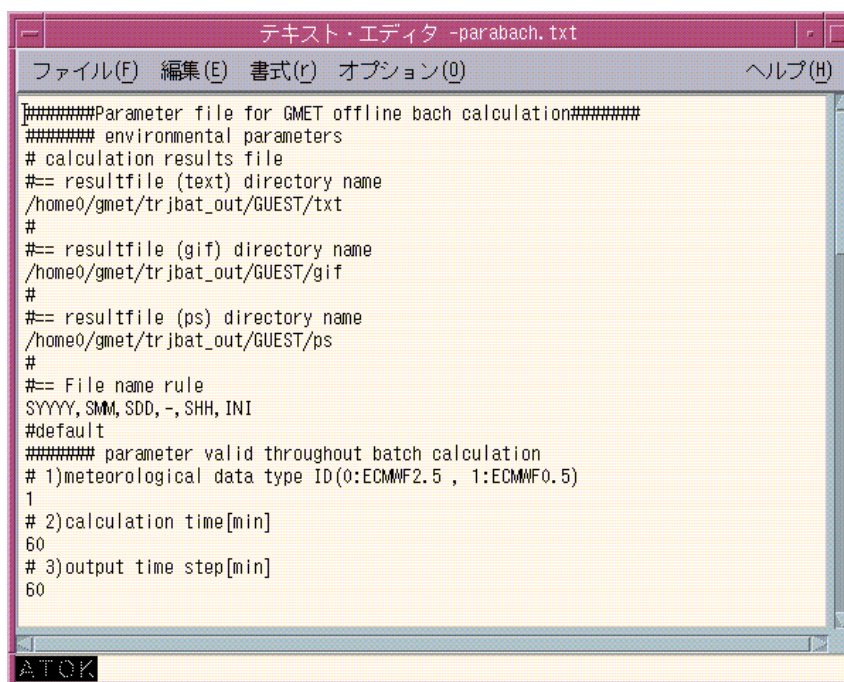


Figure 2.18 Text editor-parabatch.txt window.
テキスト・エディタ-parabatch.txt のウィンドウ

bat-1 トrajekトリの計算条件を入力する

"parabatch.txt"のプログラムを編集することでトラジェクトリの計算、作図、印刷まで一括処理することが出来、結果を自動的に保存することが出来ます。結果の数値は txt、図は gif、印刷結果は ps ファイルとして保存されます。ファイル名は連番かユーザー設定です。

点線で囲った部分がテキスト・エディタの画面に表示されているプログラムです。

```

#####Parameter file for GMET offline bach calculation#####
##### environmental parameters
# calculation results file
#== resultfile (text) directory name
/home0/gmet/trjbat_out/GUEST/txt
#
#== resultfile (gif) directory name
/home0/gmet/trjbat_out/GUEST/gif
#
#== resultfile (ps) directory name
/home0/gmet/trjbat_out/GUEST/ps
#
#== File name rule
#SYYYY,SMM,SDD, -,SHH
default
##### parameter valid throughout batch calculation
# 1)meteorological data type ID(0:ECMWF2.5 , 1:ECMWF0.5)
0
# 2)calculation time[min]
60
# 3)output time step[min]
60
# map show area
# 4)-9) input 0 then automatic
# 4)min.lon
0
# 5)max.lon
0
# 6)min.lat
0
# 7)max.lat
0
# 8)min.hgt
0
# 9)max.hgt
0
#10)print flg(0:printer off , 1:printer on)
1

```

計算結果が保存されるフォルダ名

作図結果が保存されるフォルダ名

印刷結果が保存されるフォルダ名

"SYYYY . . ."の先頭に#をつければファイル名は自動的に連番(ログインごとに1から始まる)になります。
 "default"の先頭に#をつければ計算開始時刻(西暦日付-時刻)で保存されます。詳細は命名規約を参照してください。

2.5°メッシュデータなら 0
 0.5°メッシュデータなら 1

作図範囲を自動にするなら 0
 を、**緯度**、**経度**、**高度**を指定する場合は各数値を入力。
 ただし**経度**の指定は"**0-360**"の範囲で入力。
高度はここでは先頭にマイナス不要。


結果を印刷する場合は 1
 印刷しない場合は 0


```
##### parameter by airmass
# 1)calculation method(1:isobaric, 2:isentropic)
# 2)calculation scheme(1:Euler, 2:2nd Runge-Kutta, 3:4th Runge-Kutta)
# 3)calculation start time[YYYYMMDDHH]
# 4)calculation period [hour]
# 5)foward or back(1: foward , -1: back)
# 6),7) for continue calculation
# 6)last calculation start time [YYYYMMDDHH, none; 9999999999]
# 7)count time interval(ECMWF2.5: 12 or 24 [hour],ECMWF0.5:6 or 12 or 24,none:99)
# 8)initial value [hPa or K (negative value represents Height)]
# 9)land check(0: off , 1: on)
#10)start lon      (range -90.0 - 90.0 in decimal system)
#11)start lat      (range 0.00 - 360.0 in decimal system)
#1)  2)  3)  4)  5)  6)  7)  8)  9)  10)  11)
#  2  3  1998022300  24  1  9999999999  99 -1500  0  130.0  29.0
#  1  3  1998022300  24 -1  9999999999  99  1000  0  140.15  24.05
#  2  3  1996022800  24  1  1996030112  12 -1200  0  130.0  29.0
#  1  3  1996022800  24 -1  1996030112  12  1000  0  130.0  29.0
#  1  3  1996030105  24  1  1996022705  12   925  0  130.0  29.0
#  2  3  1996030109  24 -1  1996033109  12  -800  0  130.0  29.0
#end of data
```

高度 (m) は先頭にマイナスが必要

上記の 1)から 11)に対応した項目が順に横に並んでいます。それぞれの項目の詳細は 2.2.1 オンライントラジェクトリ (p79)もしくは 3.2.1 トラジェクトリ (p104)を参照してください。

先頭に # の付いて「いない」行の条件で計算、作図、もしくは印刷されます。

編集が終わったらメニューバーの"ファイル"を 1。

"保存(S)" 1。

注；この操作をしないと編集した通りの計算が出来ません！

bat-2 トラジェクトリの計算・作図・印刷をする

"**ファイルマネージャー**"ウィンドウのどこでもいいので ㊦1 してアクティブにします。

ECMWF2.5 ° 2000 年 12 月 31 日以前および 0.5 ° データを使用する場合は "**trjbat**" ㊦2。

ECMWF2.5 ° 2001 年 1 月 1 日以降のデータを使用する場合は "**trj batn**" ㊦2。

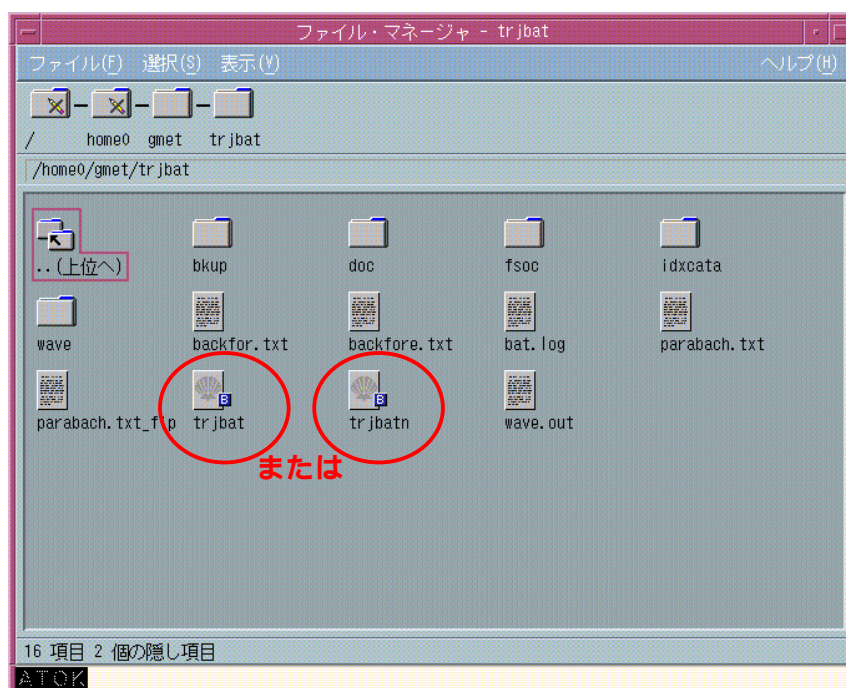


Figure 2.19 File manager-trjbat window.
ファイルマネージャー - trjbat のウィンドウ

"**アクション ; 実行**"のウィンドウが出たら"**了解**"ボタンを ㊦1。

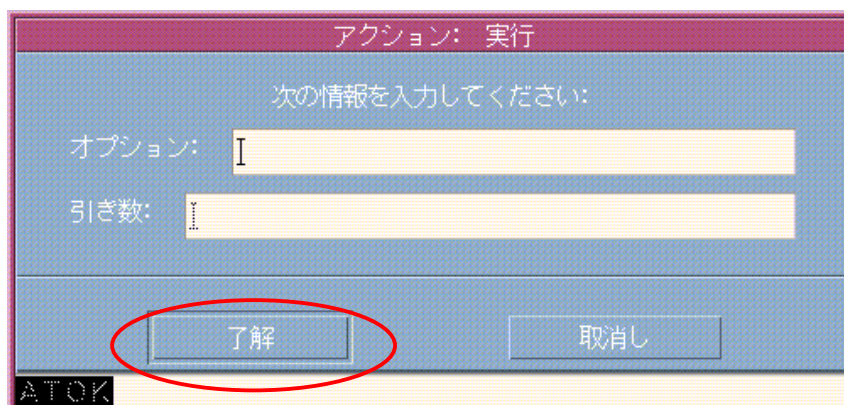



Figure 2.20 Action run window.
アクション:実行ウィンドウ

計算が始まります。その様子は"**実行**"ウィンドウで確認できます。



Figure 2.21 Run window.
実行ウィンドウ

bat-3 間違えたときに計算を中止する

"実行"ウィンドウ、これは計算の様子が動いて見えている画面をみつければすぐわかりますが、その左上角のマイナス印を 2 してウィンドウを閉じます。

[Control]と[C]を同時に押すか、或いは[Alt]と[F4]を同時に押しても中止できます。

"実行"ウィンドウが消えて計算が中止されます。

なお途中まで計算した結果は



テキストファイル /home0/gmet/trjbat_out/GUEST/txt

gif ファイル /home0/gmet/trjbat_out/GUEST/gif

ps ファイル /home0/gmet/trjbat_out/GUEST/ps

に残っています。係の者で対応いたしますので声をおかけください。

終了する

開いているウィンドウを全て閉じます。各ウィンドウ左上角の""(マイナス)印を 2 で閉じることができます。

はじめの画面に戻りましたら近くの者に声をおかけください。

2.5 トラジェクトリの重ね合わせ (、 、 、)

重ね合わせできるトラジェクトリは、オンラインまたはバッチ処理で既に計算してあるものだけです。重ね合わせをするトラジェクトリは結果テキストファイルをフォルダから選択しますので、どのフォルダに保存されているかディレクトリをメモしておかれることをお奨めします。

disp- 操作準備をする(重ね合わせ図)

bat-バッチ処理の操作準備をする、と同様にして"端末エミュレーター"のウィンドウを開きます。

"sun91g%"のあとに

`cd /home0/gmet/trjdisp` と入力。 [RETURN]

"sun91g%"が再度表示されるので `trjdisp` と入力。 [RETURN]

下のウィンドウが出てきます。

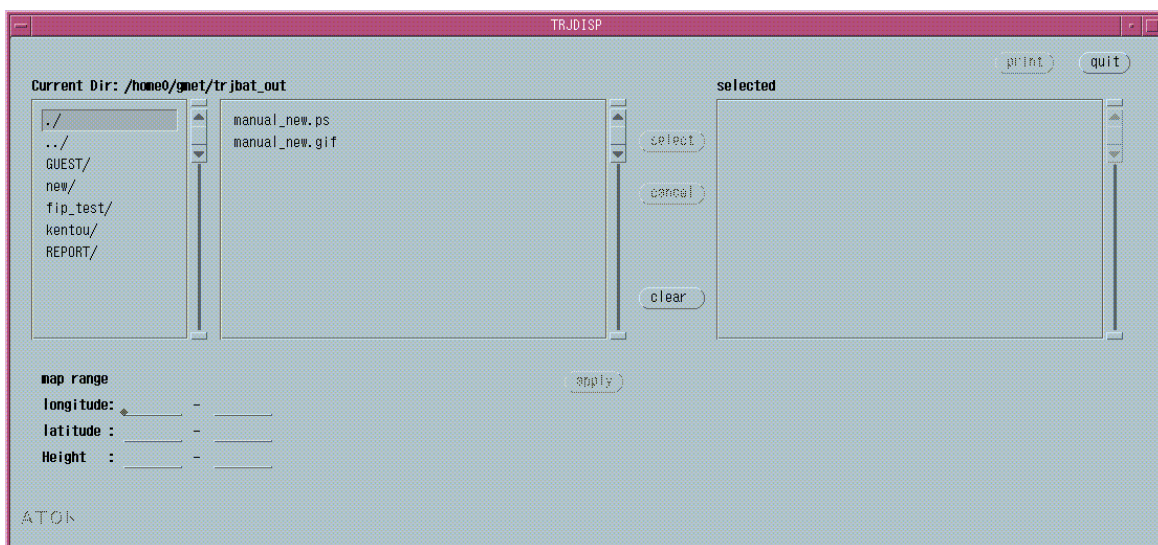


Figure 2.22 TRJDISP window.
ディレクトリ内のファイル表示ウィンドウ

disp-1 重ね合わせたいテキストファイルを選択する

"Current Dir: /home0/gmet•••••"より下位のディレクトリーが左のボックスに示されています。

希望する移動先のディレクトリを ㊦1。

一つ上位のディレクトリに移動したい場合は `../`を ㊦1。

バッチ処理で実行された方は保存ディレクトリ部分を特に書き換えていなければ

`/home0/gmet/trjbat_out/GUEST/txt`(2002 年 6 月現在)へ、

従来どおりの gmet で実行された方は

`/home0/gmet/gmetwork/wave`(2002 年 6 月現在)

に移動してください。

移動したディレクトリ内に存在するファイルの一覧がすぐ右側に表示されます。

一枚に重ね合わせをしたいファイルの上で **Ⓜ**1、連続的につながっているならドラッグして選択します。重ね合わせできる上限は 100 ファイルまでです。

選び終わったら"select"ボタンを **Ⓜ**1。

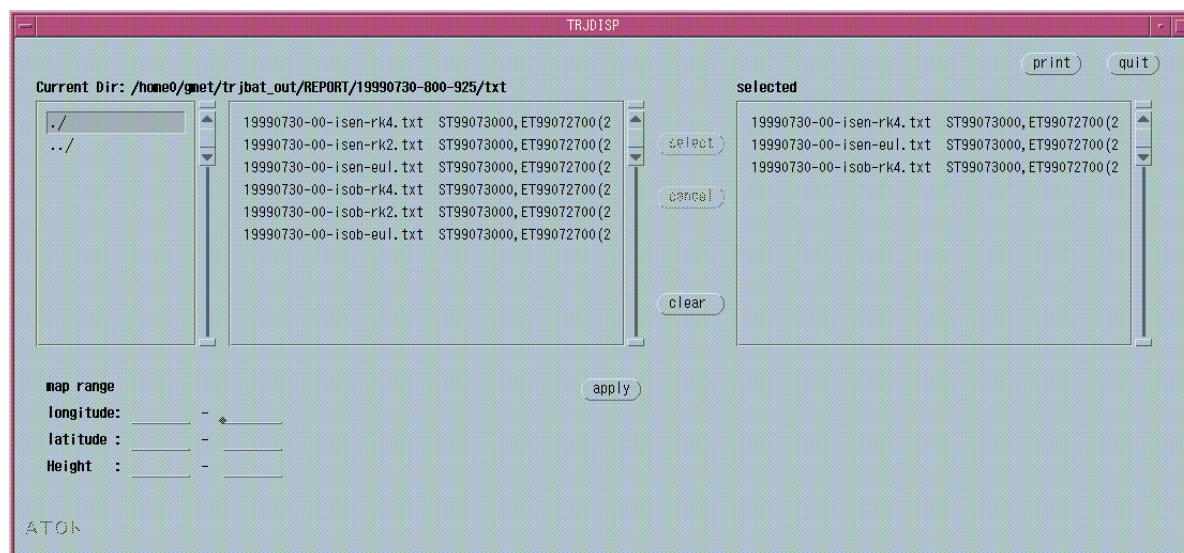


Figure 2.23 TRJDISP window (after the selection of files).
重ね合わせするトラジェクトリを選択するウィンドウ

右側の"selected"エリア内に今選択したファイルが表示されます。これらが重ね合わせ図の対象となるファイルです。キャンセルしたい時は *disp-2* へ。

重ね合わせをするファイルが正しく選択されていれば"apply"ボタンを押します。
表示する緯度、経度、高度の範囲を指定したい時は *disp-3* へ。

重ね合わせ図が表示されます。

disp-2 重ね合わせのために選択したファイルをキャンセルしたいとき

キャンセルしたいものだけ"selected"内のファイル名上で **Ⓜ**1 により選択し、その後"cancel"ボタンを **Ⓜ**1 します。

"selected"エリア内のファイルを全てクリアしたいときは "clear" ボタンを **Ⓜ**1 します。
新規に重ね合わせ図を作成したいときにも先に"clear"ボタン **Ⓜ**1 することをお奨めします。

disp-3 表示範囲(緯度・経度・高度)を指定したいとき

"TRJDISP"ウィンドウ左下の"map range"で緯度・経度・高さを指定します。

"longitude : ____-_____" (経度) 0 ~ 360 で指定。十進法で入力します。

例: 東経 90 度 3 分は **90.05** 西経 90 度 3 分は **269.95**。

"latitude : ____-_____" (緯度) -90 ~ 90 で指定。十進法で入力します。

例: 北緯 24 度 3 分は **24.05** 南緯 24 度 3 分は **-24.05**。

"Height : _ _ _ _ _" (高度/m) 0 から 999999m まで指定できます。

"apply"ボタン ㊦1 で指定した範囲で描画されます。

disp-1 出来た図を印刷する

"TRJDISP"ウィンドウの右上"print"ボタンを ㊦1。

出来た図を保存したい場合は 「 -2 出来た図を名前を付けて保存する 」 へ。

disp 終了する

"TRJDISP"ウィンドウの右上"Quit" ㊦1。

"端末エミュレータ"のウィンドウがでてきます。

"sun91g%"と表示されているので"exit"と入力します。

"端末エミュレータ"のウィンドウが消えれば OK。

近くの者に声をおかけください。